

ペシャワール会報

ペシャワール会事務局

〒810-0003 福岡市中央区春吉

1-16-8 VEGA天神南601号

TEL 092(731)2372

FAX 092(731)2373

No.169

2026年9月30日

〈URL〉 <https://www.peshawar-pms.com/> 〈E-mail〉 peshawar@kkh.biglobe.ne.jp



〔写真〕 花咲くガンベリ公園 (2019年4月20日)

いま、中村医師の蒔いた種が芽生える ― 干ばつの進行に備えてのサツマイモ栽培	村上 優
ハンセン病の早期発見とケアのために	セラトゥラー タヒリ
未来への希望を創り出すチェルガジ・プロジェクト	ディダール ムシュタク
PMSジャララバードオフィスの活動と役割	アブドゥル サープル サダット
◎中村哲医師アーカイブ 風土差と適応	中村 哲
◎カラー報告 中村医師とPMSの活動地(地図)	
ナージアン郡 モラヘイル堰・用水路事業 すべての工事を完了!!	
ガンベリ農場 結実	
維持管理事業 カシマバード	
【PMS職員紹介2】コミッティメンバーたち	
フィールドワークに向かうハンセン病センター職員	

ペシャワール会は、1983年9月、中村哲医師のペシャワール(パキスタン)での医療活動を支援する目的で結成され、現在は中村医師が設立したPMS(平和医療団・日本)のアフガニスタンでの医療活動や灌漑水利事業等の総合的農村復興事業を支援しています。

ホームページはこちらから▶



平和と相互扶助で生かされている

「人に許された僅かな時をおろそかにせず、平和と相互扶助で生かされていることを思い、何だか豊かな気分^{ひた}に浸れるのでした。政治と宗教を超え、平和を願う気持ちは何処^{いずこ}も同じです。」

——中村 哲（ペシャワール会報106号、2010年より）

いま、中村医師の蒔いた種が芽生える

——干ばつの進行に備えてのサツマイモ栽培

PMS（ピース・ジャパン・メディカルサービス）総院長 村上 優^{まさひろ}

急増する温暖化による被災

今年は二〇二三年から激化した異常気象が世界中を席卷し、干ばつと深刻な水不足、高温、洪水、山火事、その上に地震も多発しています。わが国でも二〇二四年の能登に続き、熊本でM7以上の地震があり、各地で未曾有^{みぞう}の豪雨が相次ぎました。亡くなられた方々のご冥福を心からお祈りし、一日も早い復興を願ってやみません。

中村医師は二〇〇〇年にアフガニスタンでの干ばつを眼前にすると、医療から水を届ける活動に舵を取りました。そして「アフガニスタンは戦争では滅びない、干ばつで滅びる」と訴え、その原因である地球温暖化に警鐘を鳴らしていた事実を私たちに思い起こさせます。

アフガニスタンは国連機関などに対して干ばつによる食糧不足を訴え、また資金援助を呼び掛けています。つい最近ユニセフはアフガニスタンの大部分の子どもが急性

栄養失調であり、五歳未満の子供三七〇万人の死亡リスクが著しく高くなっていると警告しました。

水と農業こそが命を守る

人口の大半が農業に従事するアフガニスタンでは、二〇世紀後半まで地球温暖化による被災はありませんでした。他国の侵攻や内戦によって地域の自律性が揺らぎ、カレーズ（地下水路）が涸れ、田畑が荒れたことは事実です。しかし、食糧自給率一〇〇%近かった国が外国からの食糧支援に頼るようになった要因は、温暖化によって山の雪がなくなり、それを源にしていた河川や井戸、カレーズの水不足です。

中村の「百の診療所より一本の用水路」という言葉は、命を守るのは第一に水であり、それが農業を支え、人々の命を守るという明快なメッセージでした。その実践として中村は用水路建設計画と同時に二〇〇二年に試験農業事業も始めました。まずは

2027年カレンダー

「人水命」

制作 ペシャワール会/PMS
A3判・カラー
写真 13点+中村哲医師の言葉
1500円(税+送料込)



今年もカレンダーを制作します。アフガニスタンの人々と風土に焦点を当てた写真に、中村医師の言葉を添えています。ぜひご購入求め下さい(ご友人・知人へのプレゼント発送も承ります)。
※ご予約は同封のハガキか注文用紙、またはHPから。
※代金は後払いで、専用の払込用紙を同封します。
※サイズは2026年版と同じで、開くとA3、閉じるとA4です。

ガラエヌール溪谷に、その後移転し、現在はガンベリ地区に二三〇haの試験農場を持つまでに至ります。

当初は中村の希望で茶の栽培に挑戦しました。換金作物であるケシ栽培をなくすには、それに代わる作物が必要と考えたのです。この時の活動は『アフガン農業支援奮闘記』(高橋修編著、橋本康範・伊藤和也・進藤陽一郎・山口敦史著、石風社、二〇一〇年)に詳細な報告があります。

二〇〇八年以降に中村が選んだのは、現地に馴染んだ作物を、地元の栽培方法を基礎とし、それに多少の工夫を加える農業でした。例外は、現地にはないサツマイモの栽培で、亡くなる前年までサツマイモにこだわっていました。

救荒作物としてのサツマイモ

サツマイモは農薬や肥料をほとんど必要

としません。太陽エネルギーを取り込む能力(光合成)が非常に強いために収穫量が高く、同じ栽培面積で米が養う人口の三倍の食を確保できるのです。飢饉の折の救荒作物としての面目がそこにあります。しかも、ビタミンやミネラルなどの栄養分が豊富な「準完全栄養食品」です。少ないのは蛋白質ですが、大豆と一緒に摂れば完全栄養になります。茎や葉は蛋白質や糖質を多く含んでいるので野菜として有用です。

サツマイモには不思議なパワーがあるようです。茎の中には空気中の窒素を固定する「内生窒素固定菌」が棲んでおり、茎をすきこむと空気中の窒素を肥料として取り込むことができます。肥料が少なくても収穫量が高いのはこのためです。害虫にも強く、もし害虫に葉を食べつくされても驚異的な再生力があり、二週間後には元の状態に復活します。



ガンベリ農場で収穫されたサツマイモ。周辺地域への普及に力を入れている(2025年11月24日)

サツマイモは種芋から蔓様の茎を切り取り、苗として植えます。ですからこの苗を挿して育てると一つの種芋から沢山の苗を作ることができます。この技術さえ会得すれば簡単に栽培を拡大することができます。植え付け時期も地域の気候にあわせることができますし、二期作のように複数回の収穫も可能です。雨が少なく水はけのよい土地が栽培に適しており、熱帯から亜熱帯、さらには温帯までの広い範囲で植え付けが可能です。ただし、冬の寒さに弱く五度以下になれば腐ってしまうので、種芋が冬を越すための貯蔵庫が必要です。

以上は山川^{おさむ}理著『サツマイモの世界 世界のサツマイモ』（現代書館）からの抜き書きです。詳しくは原著をお読みください。

よみがえった中村医師の苗

中村には戦後の食糧難の時代の実体験や江戸時代に甘藷^{かんしょ}を広めた青木昆陽^{こんよう}についての知識があり、サツマイモに希望を抱いていました。

中村は会報七十七号（二〇〇三年）からサツマイモの広がり期待する報告を度々載せています。九六号（二〇〇八年）では「サツマイモの普及は勢いづき、確実に人々の間に浸透している」と喜びを語っていました。けれども二〇〇八年八月に農業分野で活躍していた伊藤和也君が亡くなり、中村以外の日本人スタッフが撤退したため、試験農場は現地スタッフの手に委^{ゆだね}ねられ、サツマイモの報告は途絶えました。

中村の肩に水路工事の全てがかかるようになると、会報は水路の詳細な報告がメインになります。しかし、干ばつが確実に進行していると判断していた中村の脳裡^{のうり}には、救荒作物としてサツマイモ栽培を進めねば、という信念があったのです。

サツマイモ栽培が復活したのは、農業事業の責任者であるアジュマル技師が、ガンベリ農場の片隅でサツマイモらしき蔓^{つる}を見つけ、苗を作って植え始めた二〇二二年です。中村が持ってきたサツマイモの子孫が

残っていたのです。

その年の十二月、中村没後に初めてアフガニスタンを訪問した私たちが目にしたのは、ガンベリ農場の一角に育つサツマイモの蔓でした。すでに収穫期を過ぎた畑に少し残してくれていたサツマイモを目にした時には、「中村の蒔いた種がここにある！」と胸が一杯になりました。PMS支援室長の藤田も同じ思いだったでしょう。彼女は鹿兒島出身で実家は農家、当然サツマイモ栽培の経験は深いのですから。

この土地の作り方で育ったサツマイモを多くの人々が受け入れる時期が来ることを期待しています。それが中村のひそやかな夢だったはずです。

◎ 現地スタッフからの便り

ハンセン病の早期発見と

ケアのために

ドクター中村記念ハンセン病センター医師

セラトウラータヒリ

知識と実践的スキルの向上を目指して

私はシャフィキラの息子、セラトウラーと申します。ナンガラハル大学医学部を

§ お世話になった二人の先生 §

二〇二六年六月に中村の恩人が世を去った。中村の大牟田労災病院時代からの知己で、脳神経学臨床の先達でもある馬場繁行先生と、ペシャワール会第三代会長の後藤哲也先生のお二人。

馬場先生は、中村が所属していたJOC Sを一九九〇年に離れて以降、人知れず中村の生活を全面的に支えてくださった。

後藤先生は二〇〇五年から会長として、PMSが医療から水路事業にシフトしていく時期に中村を温かく見守っていただいた。ここに生前のご厚誼に感謝し、ご冥福をお祈りします。

卒業し、医学の学位を取得しました。PMSの「ドクター中村記念ハンセン病センター」で医師として勤務して十ヵ月になります。同センターは、ハンセン病患者の診断、治療、経過観察、および病状管理を専門に行う施設です。アフガニスタンではハンセン病は報告数が少なく、医療機関ではこれまであまり注目されてこなかったため、私自身も当初はその診断や病状管理について、乏しい知識・実務経験しか持ち合わせておりませんでした。

そのような私たちのためにPMSジャラバード事務所は、ハンセン病の診察、診断、治療に関する知識と実践的なスキルを向上させるため、教育研修プログラムを企画・実施してくれました。最初の研修はシスター藤田によって行われました。次に、パキスタンのペシャワールにあったPMS基地病院でドクターサーブナカムラと働いていた元職員と、旧北西辺境州全体のハンセン病診療のためドクター中村と活動したハンセン病専門家によって、実質約一カ月間のトレーニングが実施されました。

医療機関を訪問

研修に並行して私たちはアフガン東部四州の医療機関の訪問を実施、ハンセン病診療について医療従事者への意識向上を図っています。その上でハンセン病の疑いがある

る症例を紹介し、早期発見・早期治療に結びつけるための活動を続行中です。

医療機関訪問チームは、看護師一名、検査技師一名、ならびに医師である私で構成されました。

七月までにナンガラハル州二二郡、クナール州十五郡、ヌーリスタン州八郡の全域を巡回し、公的医療施設一六三カ所および民間医療施設五三カ所の計二一六カ所を訪問しました。

訪問の際には、まず「ドクター中村記念ハンセン病センター」の活動内容について説明します。そして、ハンセン病を正しく診断し治療に繋げるべく、次のような情報と診察方法を提供しています。

- ・疾患の徴候と症状
- ・ハンセン病を疑うべき重要な臨床的特徴
- ・疑いのある患者の身体診察の方法と実践

◎重版出来！

中村哲対談集

—人・水・命—

ペシャワール会編／石風社刊

【対談者】徳永進／井上ひさし／池澤夏樹／鶴見俊輔／養老孟司／原寮／辰野勇／菅原文太／大澤真幸／半藤一利

今こそ中村医師の言葉を！

*詳しくは同封のチラシをご覧ください。
2025年12月刊／四六判並製1870円(税込)

◎地方出版文化功労賞受賞

中村哲 [上・下巻]

思索と行動

中村哲著／ペシャワール会発行

「ペシャワール会報」現地活動報告集成1983～2019

会報に掲載された中村医師の報告をまとめました。ぜひご購読下さい。

A5判上製・上巻432頁／下巻456頁 各2970円(税込)



・早期治療の重要性——疑いのある患者はPMSのセンターへ紹介すること

各機関を対象とした研修としては、外来の診察、特に皮膚科外来に同席して、患者の身体診察を共に行いました。

ハンセン病の疑いがある場合は、組織液塗抹検査、および家族内接触者の診察を実施しています。

また、訪問した医療機関にはドクター中村が編集した症例写真集を教育用テキストとして配布しました。

現場訪問の成果

現場訪問における最も重要な成果の一つは、各医療機関と「ドクター中村記念ハンセン病センター」との間に、患者紹介の効果的な仕組みを確立できたことです。

啓蒙活動や各機関の医療従事者との連携の結果、ハンセン病の疑いがある患者は当センターに紹介されて来院します。

これまでに五名の患者がハンセン病と診断され、投薬をしながら経過観察をしています。治療に対する反応も良好で状態は改善しております。五名はクナール州出身で縁戚関係にあり、これまでハンセン病の診察を受けたことはありませんでした。私たちは彼らの家族検査を実施して、濃厚接触者に対しては予防としてリファンピシンの投与をしています。

医療機関の訪問は、私たちにとってハン

セン病診療の実践的な経験を深めるための重要な機会となりました。また、ナンガラハル、クナール、ヌーリスタンの各地域の医療従事者がハンセン病について知識を得たことにより、早期発見と早期治療の重要性の認識を高めることにも寄与しました。

ハンセン病センターで確定診断に至った五つの症例と濃厚接触者の診察及び経過観察は、ハンセン病対策において、継続的な研修、地域社会および医療従事者の意識向上、体系的なスクリーニング（初期検査）、そして効果的な紹介体制がいかに重要であるかを実証するものです。



ヌーリスタン州の医療機関を訪問したセラトゥラー医師
(2026年8月11日)

私は、同僚や訪問チームの献身と協力、そして強い使命感に心から敬意を表します。また、訪問先のすべての医療従事者たちの協力、患者たちへの貢献に感謝します。そして、ハンセン病患者の早期発見とケアに尽力する貴重な機会を設けてくださったP

未来への希望を創り出す

チエルガジ・プロジェクト

PMSチーフエンジニア

ダイダールムシタク

農業復興と生計基盤の強化のために

アフガニスタン東部のナンガラハル州チエルガジ地域の農村は、干ばつ、水資源の減少、降雨パターンの変化によって深刻な影響を受けています。私たちPMSは、この地域の水資源を回復させ、農業復興と生計基盤を強化するための新たな取り組みを進めようとしています。

本年十月一日よりPMSが、アフガニスタンの関係当局および地域社会と協力して実施する「チエルガジ・プロジェクト」は、チエルガジ、インゼレイ、ロヒー、マルーフチナの四つの村の約一二〇〇世帯（約一万二千人）を支援する計画です。

人々にとって水は生活の基盤です。水が

Mに深く感謝申し上げます。
最後に、私たちのチームが今後もさらなる目的の達成と、より一層の献身と職業意識をもって患者たちや地域社会に貢献できる機会に恵まれるよう、全能の神に祈りを捧げます。

なければ、農民は土地を耕すことも、果樹園を維持することも、先祖代々の土地に留まり続けることもできません。しかし近年、長期におよぶ乾季、地表水・地下水の減少により、農業生産はますます困難になっています。

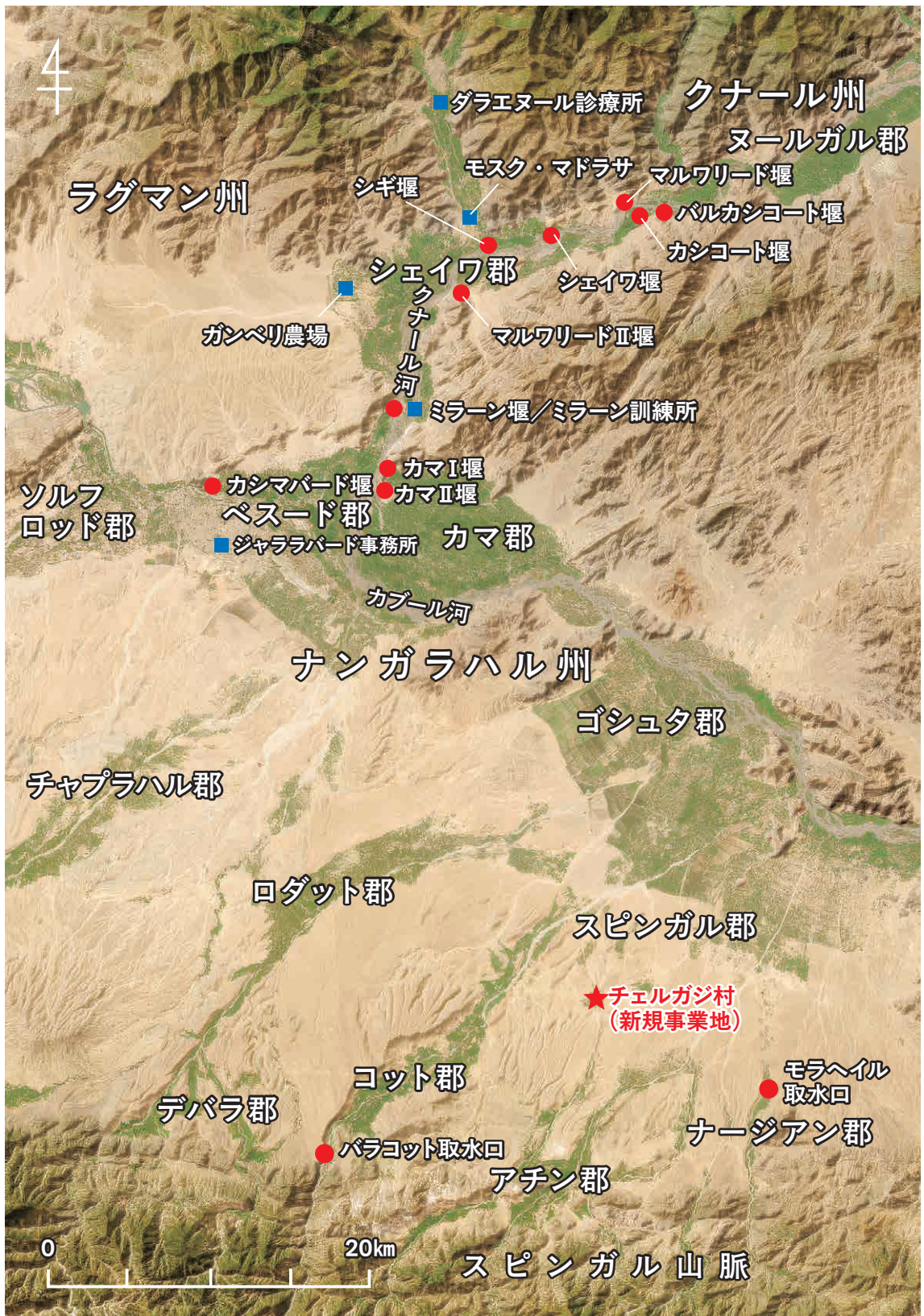
PMSのチエルガジ・プロジェクトは、この問題に対して包括的なアプローチをとります。個々の水利施設の建設のみに焦点を当てるのではなく、この地域の伝統的な水路の回復、雨水や湧水の有効利用、そして山々、水源、農地、地域社会とのつながりの強化を目指しています。

伝統的な水資源の復旧を目指して

このプロジェクトの重要な要素の一つは、伝統的なカレーズ（地下水路）や湧水の修復と復旧です。

カレーズは、山麓や高地からの地下水を村や農地へと導く暗渠です。歴史的にアフガニスタン全土の地域社会に水を供給する上で不可欠な役割を果たしてきました。その仕組みは単純ですが、何世代にもわたる

中村医師とPMSの活動地



ナージアン郡 モラヘイル堰・用水路事業 すべての工事を完了!!

ナージアン事業は、7月にバゴン地区の工事が終了し、工期末(2026年9月)までに予定されていたすべての工程を終えた。

●工期：2024年4月1日～2026年9月30日

●予算：約2億6千万円

●受益面積：約360ヘクタール

●受益人口：約11,000人



完成したバゴン地区の設備。上流に約10ヵ所確認されていた湧水を1つの水路に集め、用水路へ導く。(2026年8月5日)



完成したギーダルナウ谷の砂防堤。上下流1ヵ所ずつ造成され、それぞれ22,000m³の貯水容量を持つ。ナージアン事業では、谷あいを流れ下る鉄砲水を緩流化させるため、盛土のほか、蛇籠、巨礫を用いた砂防堤が計8ヵ所造成された。(2026年8月12日)

完成したナージアの水利施設



モラヘイル堰 (2025年3月29日)



モラヘイル用水路 (2026年6月24日)



モラヘイル沈砂池 (2026年6月24日)



トルナウ砂防堤 (2026年6月24日)



ミアガン取水口 (2026年8月12日)



カチコール湧水導水路 (2026年8月12日)



工事現場に集まってくる子どもたち。PMSの設備はこの先何十年と、彼らの生活を支える。(2024年5月14日)

* ガンベリ農場 結実 *



3月末に植え付けたサツマイモを試し掘り。順調に育っているようだ。今年はいくつかの圃場^{ほじょう}を準備し、砂地でのサツマイモ栽培も試みている。(2026年8月20日)



台木(レモン)にオレンジの接ぎ木をする作業員。生長後の苗は果樹園に移植するほか、バザールへ出荷し収入となる。ガンベリ農場では、約50,000本の柑橘類を育苗中。(2026年6月28日)



ナツメヤシ園。日本大使館の資金提供を受けて2016年に開始されたナツメヤシ栽培は、2021年に初の結実以降、毎年収穫量を伸ばしている。来年以降、圃場の拡張を計画中。(2026年7月27日)

●維持管理事業 カシマバード堰●



上流ダムの影響もあってカブール河の流量が安定せず、頻繁に河道^{しゅんせつ}浚渫を余儀なくされているカシマバード。今年前半は例年より降雨が多く、水量が豊富だったものの、6月には雨不足が続き、用水路の取水が困難になった。田んぼに多くの水が必要な季節、用水路へ十分な水を送るべく、PMSは5日間の浚渫作業を行なった。(2026年6月27日)



浚渫作業を終え、水量を回復した用水路。(2026年7月1日)



取水門前の堰き上げられた水場や勢いよく流れる土砂吐きは、早速子ども達の遊び場と化した。PMSが造る灌漑設備の至るところで見られる光景で、夏の風物詩である。(2026年7月1日)

ジャララバード事務所



PMS副院長／ジャララバード事務所所長
ジア ウル ラフマン医師

1996年より中村医師と働き、2006年からアフガン側へ異動し、PMS事業全体の統括を担う。事務所の体制整備や行政との渉外など、各現場の活動が滞りなく進められるのはジア医師の尽力に負うところが大きい。



事務責任者
アブドゥル サープル サダット
(サープル ジャン)

行政への提出書類の作成・管理および日本側との連携役を果たす。日々の膨大なデータを日本側へ届ける。

*「ジャン」は敬称



会計責任者
ハニフラ タヒリ技師

PMSに入職した当初は井戸事業の技師として尽力。その後会計の担当者となり、全事業の円滑な運営のため奮闘中。



会計補佐
カービル ヤドガリ(カービル ジャン)

ハニフラ技師と二人三脚で会計業務をこなす。燃料の調達や管理、資機材の見積りのチェックを行なっている。



PMS職員紹介

2

コミッティメンバー
(部門責任者)たち



中村医師とともに (2019年2月3日)

農業



農業技師 アジュマル スタニクザイ
(アジュマル ジャン)

マルワリード用水路の植樹を担当し、現在はガンベリ農場の責任者。中村医師の下、現地の自給自足の農村の復活を目指して試験農場の運営に注力。

灌 漑



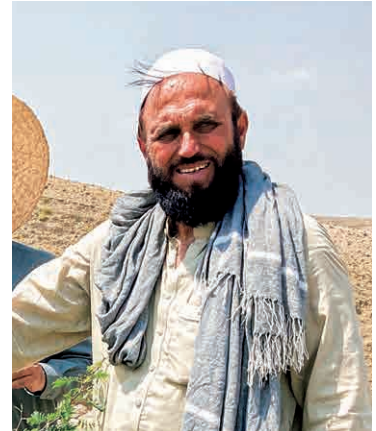
チーフエンジニア
ディダール ムシュタク技師

灌漑部門の責任者。新規事業の計画、設計等を担う。前号の職員紹介に登場した若手技師3名にはファヒーム技師とともに座学と現場の両面から技術の伝達に注力する。若手3名のうちポーパル技師は甥。



現場責任者
モハマド ファヒーム シェルザド
技師

中村医師に密着し数々の灌漑事業に取り組んできた百戦錬磨の現場人。PMSがこれまでに手がけた水利施設の点検や補修を行なう維持管理事業なども担当。



渉外
パチャ グル
(パチャ サープ)

トルハム国境で中村医師と出会いPMS職員となる。地域住民との折衝、現場監督や資機材の管理など業務は多岐にわたる。
*「サープ」は敬称

医 療



ダラエヌール診療所／
ハンセン病センター責任者
ハフィズラー カニ医師

2005年入職。ダラエヌール診療所でハミドゥラー医師と共に毎日200人以上の患者を診察している。ドクター中村記念ハンセン病センターの責任者を兼務。



ダラエヌール診療所
ハミドゥラー医師

1990年入職。医療過疎地に開かれたどの診療所へも一度もNOと言わず赴いた。中村医師曰く、「ワールドワークの父」。



ダラエヌール診療所／
ハンセン病センター
モハマッド アーベッド看護師

1987年に入職して早40年近くの最古参職員。現在は自身の豊富なハンセン病診療活動の経験をもとに、ハンセン病センターの次世代職員への指導を行なっている。

* フィールドワークに向かうハンセン病センター職員 *

昨年11月より活動を開始したドクター中村記念ハンセン病センターの職員は、藤田PMS支援室長やハンセン病診療の専門員によるトレーニング、テキストを用いた座学を通してハンセン病に関する知識や診療技術を身につけてきた。今年1月からはナンガラハル州を含む4州の医療機関訪問を実施し、ハンセン病患者の早期発見につなげられるよう東奔西走している。



ナンガラハル州、クナール州での病院訪問を終え、ヌーリスターン州のフィールドワークに赴いた職員。ヌーリスターンには以前中村医師が山村部に開いたワマ診療所がある（現在は行政に譲渡されている）。（2026年7月14日）



パキスタンのチトラール県ラシュトに開設された診療所に向かう中村医師。同地はパキスタン最北端でアフガニスタンとの国境付近にあり、ハンセン病の多発地帯でもあった。（1996年頃）

中村哲医師の著作等

(価格は税込)

アフガン・緑の大地計画

Peace (Japan) Medical Services & ベシャワール会
B5判並製・256頁・オールカラー 1700円

好評発売中!

わたしは「セロ弾きのゴーシュ」

中村哲が本当に伝えたかったこと 1760円

天、共に在り 1760円

アフガニスタン三十年の闘い

NHK出版 東京都渋谷区宇田川町41-1
☎ 03 (3464) 7311

希望の一滴

中村哲、アフガン最期の言葉

A5判192頁オールカラー 1650円

西日本新聞社 福岡市中央区天神1-4-1
☎ 092 (711) 5523

アフガニスタンで考える

～国際貢献と憲法九条～ 726円

人は愛するに足り、真心は
信ずるに足る アフガンとの約束

中村哲／澤地久枝(聞き手) 1188円

岩波書店 東京都千代田区一ツ橋2-5-5
☎ 03 (5210) 4000

医者、用水路を拓く 1980円

ベシャワールにて 1980円

ダラエ・ヌールへの道 2200円

医は国境を越えて 2200円

医者 井戸を掘る 1980円

辺境で診る 辺境から見る 1980円

石風社 福岡市中央区渡辺通2-3-24
☎ 092 (714) 4838

ほんとうのアフガニスタン

1650円 光文社

文京区音羽1-16-6 ☎ 03 (5395) 8116

医者よ、信念はいらないまず命を救え!

1980円 羊土社

千代田区神田小川町2-5-1 ☎ 03 (5282) 1211

アフガニスタンの診療所から

858円 ちくま文庫

台東区蔵前2-5-3 ☎ 03 (5687) 2680

映像記録DVD

荒野に希望の灯をともし

～医師・中村哲の35年の軌跡～

[2021年発売] 2970円

アフガニスタン [16年発売] 2970円

用水路が運ぶ恵みと平和

アフガニスタン [12年発売] 2750円

干ばつの大地に用水路を拓く

[企画]ベシャワール会[製作]日本電波ニュース社

地元住民の知恵と、アフガニスタンの乾燥した気候への適応力が凝縮されています。農村部の多くのカレーズや天然の湧水は、地下水位の低下に加え、長年にわたる戦争・紛争のために維持管理が手薄になり、土砂堆積や老朽化による水路などの崩壊に悩まされてきました。こうした伝統的な水源が機能しなくなると、その影響は飲用水や灌漑用水の喪失にとどまりません。農地の生産性が低下し、果樹園が衰退し、農民は農場を放棄せざるを得なくなる可能性があります。したがって、チェルガジ・プロジェクトでは、技術的・環境的に実現可能な場所において、この伝統的な水源を再び利用可能にすることを重視しています。カレーズや湧水の復活は、既存の水資源を回復させるだけでなく、ますます不安定になっていく井戸水などへの依存を軽減することにもつながります。

乾季に備える雨水貯留

このプロジェクトのもう一つの重要な原則是、降雨をより有効に活用することです。チェルガジ地域では冬から早春が雨期ですが、しかし、雨やスピンガル山脈の雪解け水は山岳地帯の集水域を急速に流下するため、流域の地下水涵養や農業用水の確保に十分に寄与することなく川へ流出してしまいます。

本プロジェクトは、この流出水の一部を貯留し、水が地域の流域内に長期間留まるようにすることを目指しています。この取り組みにより、破壊的な流出や浸食を軽減しつつ、乾季における農業用水の確保が期待されます。

小規模な貯水とカレーズおよび湧水の復旧を組み合わせることで、本プロジェクトは、降雨、地下水、湧水、灌漑が相互に連携する地域の水システムの構築を目指して

います。

農業と農村の生計支援

水資源確保の究極の目的は、単に水を貯めることではありません。農業用地を回復させ、人々の生計を改善することにあります。チェルガジ、インゼレイ、ロヒー、マルーフチナの四つの村は、農村社会であり、生計は農業と密接に結びついています。作物の栽培、果樹園の維持、家畜の飼育による収入確保には、安定した水供給が不可欠です。

水が確保されれば、農家は既存の農地をより有効に活用でき、干ばつ時の作物の被害を軽減できます。また、生産性が低下した土地を回復させることも可能です。現在、干ばつ以前は約七三六haだった農地のうち三〇五haだけが主に地下水で灌漑されており、残りは干上がっている状態です。本プロジェクトでは、水資源の確保、農



雨期のマーマンド川。チエルガジ村周辺ではこの時期を除くと取水は期待できない（2026年4月29日）

業改善、流域保全を、個別の活動ではなく、単一のシステムの一部として捉えています。

地域社会との連携

チエルガジ・プロジェクトの中心的な特徴は、「地域住民参加」にあります。伝統的な水システムを復元する際、何世代にもわたってこの地域で暮らしてきた農家や住民の知識が特に重要になります。地元の人々は、歴史的に湧水がどこから湧き出ていたか、カレーズがどのように建設・維持されてきたか、洪水や鉄砲水が自然にどこへ流

れるか、そしてどの地域が農業に最も適しているかを理解しています。

PMSは、こうした住民の知見と、水資源確保における技術的知識や経験を融合させることを目指しています。地域社会やアフガニスタン当局との協力を通じて、本プロジェクトが造る施設が地域の状況に適しており、建設後も住民による維持管理が可能となるよう努めています。

このプロジェクトは、アフガニスタンにおけるPMSの長年にわたる理念も反映しています。すなわち、「開発は地域住民のニーズと知識から始め、最終的には地域社会が自らの資源を維持・管理できるようにすべきである」というものです。

アフガニスタンの農村部は、現在も干ばつ、水不足、環境悪化、経済的困難といった重大な課題に直面しています。農家にとって、湧水やカレーズの枯渇は、生計手段そのものを失うことを意味します。一方、水源を復元することは、単に水が戻る以上の効果をもたらします。農地や果樹園を維持し、雇用機会を創出することは、家族が地域社会にとどまることにもつながるからです。

以上のように、本プロジェクトは単なるインフラ整備事業にとどまらず、自然の水循環を回復させ、農村生活の基盤を強化するための取り組みなのです。

ドクターナカムラの意思を継いで

チエルガジ・プロジェクトは、ドクターサーブナカムラが示した理念と密接に関連しています。先生はアフガニスタンでの数十年にわたる活動を通じて、実践的かつ持続可能な展開を目指し、地域社会の根本的なニーズに対応することの重要性を示しました。

ドクターサーブは、「水の供給と農業の復興こそが、平和と安定の基盤を築く」と繰り返し強調していました。十月から開始されるこのプロジェクトは、農村社会の最も基本的なニーズの一つである「水」に焦点を当てることと、先生の哲学を受け継いでいます。

チエルガジなど四つの村の約一二〇〇世帯（約二万二千人）にとって、このプロジェクトの成否は、最終的に建設された施設の数ではなく、地域に水が戻るかどうか、湧水やカレーズが再び機能するかどうか、農地が耕せるようになるかどうか、そして各家族が自分の村でより安定した未来を築けるかどうかによって測られることになるでしょう。私たちPMSは、チエルガジ・プロジェクトが、伝統的知識、現代工学、流域保全、そして地域社会がどのように連携すれば、農村部における水不足に対処できるかを示す好例となることを願っています。

水が常に農業や地域社会の運命を決定づ

けてきたこの地域において、水を回復させることは、単に畑を回復させる以上の意味

PM Sジャラバードオフィスの活動と役割

事務責任者

アブドウルサールサダット

私は高等教育を修了した後、二〇〇三年にPM Sに職を得、それ以来、ここで活動しています。

PM Sは、医療・農業・灌漑という三つの活動を通じて、地域社会の生活環境を改善し、支援を必要とする人々に不可欠なサービスを提供すべく努めています。

本レポートでは、PM Sの全活動が円滑に進められるように支えるオフィスの役割と業務内容について簡単に紹介します。

(1) 日常の事務作業と調整業務

PM Sの勤務日は、労働社会省の規定に基づき、土曜日から木曜日の午前中までです。金曜日が休日となっています。勤務時間は午前八時から始まります。

始業時には朝礼が行われ、その後、各セクションの責任者（12〜13頁参照）が集まって会議を開き、活動の進捗状況や当日の作業内容が伝達されます。また、問題点や要

求を持ちます。何より、未来への希望を創り出すという意味があるのです。

請、提案事項等が出されると、この会議で協議します。オフィスは、すべての協議内容を記録し、PM Sの方針、手順、および規則に従って必要な措置を講じます。

(2) プロジェクトのサポート

オフィスは、以下のような様々な分野でプロジェクトのサポートをしています。

- ① 総務 ② 警備・安全
 - ③ 地域社会関連事業 ④ 輸送
 - ⑤ 建設資材 ⑥ 技術的要件
 - ⑦ その他の運営上の必要事項
- 各プロジェクトチームとの密接かつ継続的な連携を通じて、活動が円滑に進められるよう努めています。

(3) 調達および供給

オフィスには、各プロジェクトから要請された物品、機器、その他の資材の購入を担当する調達委員会が設置されています。各プロジェクトから調達依頼が提出されると、調達委員会ではまず市場価格の調査を行い、見積りを取ります。必要な手続きと責任者の承認を経て、依頼された物品が購入され、該当するプロジェクト現場に配送されます。

また、燃料消費量と関連経費を適切に記

録し、各現場のニーズと定められた配給スケジュールに基づいて、燃料その他を現場に適切に供給しています。

(4) 現場作業員・重機・建設資材の管理

オフィスのスタッフは、灌漑及び農業プロジェクトの現場へ出向いて、作業員及び稼働している重機類の作業内容を確認し全てを記録します。

各現場の作業員や警備員、稼働している重機の機種・台数は、定期的に確認しています。また、現場チームは、建設資材の消費量および残量に関する報告書をオフィスに提出しています。

この管理システムにより、プロジェクトの資材は、計画や組織の手順に従って適切かつ透明性をもって使用されます。

(5) 二〇二五年夏の大地震に対する緊急対応

昨年八月末日、ナンガラハル州のダラエヌール地方およびクナル州のヌールガル地方を襲った大規模な地震に際して実施された活動について、特記しておきたいと思っています。

この地震は、被災した地域社会に甚大な人的・物的被害をもたらしました。

被災した地域は山間部で、雨の多い寒い季節が迫っていたため、緊急の対応が求められました。私たちは直ちに調査・評価チームを結成し、被災地に派遣しました。



膨大な事務作業をこなすサーブルジャン（2025年5月15日）

日本の皆様からの財政的支援とご厚意により、PMSは、家を失ったり避難場所がない世帯に対し、食料・衣類・テントなど必要な物資を提供することができました。

(6) 行政への報告・調整

六ヵ月毎に各プロジェクトの関係省庁へ活動及び会計報告書を電子データと紙媒体の両方で提出する義務も担っています。

医療と農業プロジェクトに関しては、所定の様式を用いて、月次報告書をナンガラハル州の関連部門に正式に提出しています。

(7) 給与および財務調整

オフィスでは毎月末、全プロジェクトに従事する職員及び作業員の出欠簿を各セクションから集め、精査後に会計セクションに提出します。また、灌漑や農業プロジェクトで使用しているレンタル重機の稼働時間も、まとめて会計セクションに提出。

そのデータを元に、給与支払い、作業員への労賃の支払い、レンタル重機会社への支払いが実行されます。

(8) 契約管理

オフィスは、PMSが契約している全ての案件について期限通りに更新・延長または停止する責任も担っています。

プロジェクトを円滑かつ継続的に実施するためには、適切かつタイムリーな契約管理が不可欠です。

(9) 州レベルの調整会議への参加

毎月、ナンガラハル州の知事公邸で州開発委員会が開催されます。通常、オフィスの代表者がPMSを代表してこれらの会議に参加します。

また、ナンガラハル州経済局にてNGO調整会議も毎月開催されます。オフィスの代表者もこの会議に参加し、関連する政府当局や州内で活動する他の組織との連携を維持しています。

ご支援に感謝

PMSオフィスは、アフガニスタンにおけるPMS活動の効果的な実施を確保する上で、重要な調整およびサポートの役割を果たしています。事務・物流・調達・報告・モニタリング・契約・調整の各分野における支援を提供することで、オフィスは各プロジェクトが効果的かつ期日通りに遂行できるよう支援しています。

PMSの一員として、アフガニスタンの脆弱で十分な支援を受けていない地域社会を支援する取り組みに貢献できることを光榮に思います。

日本の皆様からの継続的なご協力とご支援により、PMSは生きる上での根本的な生活基盤と人道上の緊急事態の両方に対応することができています。

最後まで私のレポートを読んで頂き、ありがとうございます。ご支援に心より感謝申し上げます。

▼寄付をしてくださる皆さまへ

*当会は法人格を持たない「任意団体」です。お送り下さった「寄付については税金控除の対象となりません。予めご了承くださいませ、お願い致します。

*会費、寄付をご入金される際は、払込用紙の受領ハガキ欄の「要・不要」のどちらかに○印をお願いします。

◎中村哲医師アーカイブ

*『辺境で診る 辺境から見る』(二〇〇三年刊、石風社) より

風土差と適応

中村哲

所かわれば品かわる。風土性というもの
は確かにある。ペシャワールで暇つぶしに
庭を歩くと、いろんな虫や動物たちに遭遇
する。

まず、動物のスタイルが総じてスマートで
ある。カラスもヤギも、ヒトもそうである。
へビでも驚くほど細みで長い。私の専門は
神経学だから頭が気になる。現地の人々の
中で日本人を見ると、手足が短く頭が大き
い。黄色人種の頭部を上から見ると円形だ
が、インド・アーリアン系は楕円形だ。屋上
から人の頭を見ると、モンゴル系かアーリ
アン系かすぐ分かる。人種論を言うのは少
しはばかるが、やはり多少違う。黄色人種
は気が利いて器用だ。トルコ人の故郷はア
フガニスタンの北、トルキスタンで、元々
は黄色人種だ。カーペット職人、ブズカシ
という騎馬競技の騎手は、トルコマンであ
る。

しかし、風土としか思えぬ場合も多い。
アリは集団生活を営むが、何となくヒトに

似ている。砂糖を少し地面の上に置いてお
くと、日本のアリ道は多少蛇行しても、ほ
ぼ真つすぐに巣に近い方へ伸びてゆく。し
かし、個々のアリはそう機敏ではない。ペ
シャワールでは、アリの動きが凄まじく速
い。ノミかと見違うほど、敏速に動く。し
かし、まるで協調性がない。大きな虫の死
骸などは、日本のアリなら皆で担いで巣へ
近づけるが、現地のアリは互いに引つ張り
合って、ちつとも前進しない。最終的には
個々のアリが引きちぎってめいめいが持ち
去る。アリ道はやたらに支線や蛇行が多い。

軒先のスズメもそうで、いつも口を開け
ている。巣の作り方は粗雑で、小枝やワラ
をバサバサと置いて、あつと言う間に仕上
げる。もっとも嵐のような突風が時々吹き
荒れるから、いちいち丁寧に作っていると
間尺に合わないし、粗めでないと暑い。粗
雑さも適応形態のひとつなのだ。緻密な人
にはいらいらする風土だが、どこか一本か
二本抜けてないと生きてゆけない。三本か

四本抜けている自分のような者には住みや
すい。

PMSの動き

5月末～ ハンセン病センター職員が
クナール州、ヌーリスタン州でフィー
ルドワーク

6月2日～11日 ガンベリ農場で田植え

8月18日～ PMS 支援室員がジャラ
ラバード事務所に滞在

9月30日 ナー吉安事業完工

▼現地活動を紹介するパンフレットをお
送ります

*ペシャワール会の活動をご紹介されるときにお
使いいただけるものです(払込用紙がついて
います)。ご希望の方は事務局にご連絡下さ
い。パンフレットはA3変形を四つ折りしたも
ので、長形の定形封筒に入るカラー版です。

▼未使用の切手、書き損じハガキ(官製
ハガキ・年賀ハガキ)をお送り下さい

*引き出しの中などに眠っているものをお送りい
ただければ幸いです。会報発送等に使わせて
いただき大変助かっております。なお、外国
の切手はお受けしておりません。

●事務局だより

*この夏は厳しい自然災害が頻出、心痛む日々でした。熊本地震や、豪雨による被災者の皆様に心からのお見舞いを申し上げ、一刻も早い復旧をお祈りいたします。

*八月二六日にネパールから報じられた大規模な土石流の映像は衝撃的でした。温暖化による氷河の崩壊が要因とされています。二〇〇〇年にパキスタン北部のラシュト診療所近くで氷河崩落の災害を目の当たりにした中村医師は『医者 井戸を掘る』(参照)、地球温暖化について警鐘を鳴らし続けていました。今年の中村哲記念講演では、地球温暖化をテーマとして、ゲストに気象予報士の吉竹 顕彰氏をお迎えし講演を行います。十一月二八日、会場は西南学院大学チャペルです。

*ナージアン事業は九月末に完工いたしました。十月からは、ディダール技師の報告にあるように、「チエルガジ・プロジェクト」が始まります。会報一六八号でお報せした「マーマンダラ」地域での事業です。スピニングガル山脈を水源とするマーマンド川流域の農村の農地回復のため、二、三日で消える洪水をできるだけ長時間貯留できる「ため池」を造成します。裨益率の高いチエルガジ村がメインということで、プロジェクト名が決まりました。工期は二年の予定です。

*データ管理システムの変更に伴い、今号より会報郵送時の宛名ラベルに会員・支援者の皆様のID番号を記載しました。ご了承ください。

*七月一日に事務局長が古川正敏から東郷博文に交代しました。

●PMS支援室より

*昨年十一月にハンセン病センターが開所されて以来、職員たちはアフガン東部四州への医療機関訪問

を継続している。ナンガラハル州二二郡の訪問が終わり、次のクナール州十五郡は順調に行くと思っていたが、隣国との紛争によるミサイル攻撃という難題にぶつかった。その次のヌーリスタン州は更に少ない八郡であったが、周辺の三州からのアブローチが必要であり、さらに七月には局所豪雨による鉄砲水が発生したため、やっと終了したのが八月に入った頃。現在ラグマン州への訪問が始まったばかりで、次は何が起ころのだろうと懸念しながら、中村先生の言葉を思い出している。「焦らず諦めないことだ」。セラトゥラー医師が記しているように、ハンセン病センターでのトレーニングのため、パキスタンから二名の経験豊かな医療者が馳せ参じてくれた。彼らも、「ハンセン病は撲滅された」との発表の裏で未治療患者が実在する現実に対し、黙々と診療・治療を続けている。

◎村から

*ボランティアとしての私の仕事は、書籍やDVDを販売したり、ご支援くださる皆様からの注文に応じて発送したりすることです。

中村哲先生が講演される時にはよく会場に出掛け販売をしました。二〇一九年の講演会の時、先生がコーヒを飲みたいとおっしゃっているのを耳にした私は、ビルの最上階から下に降りて、道を隔てた商店街へ。自販機をみつめて購入し大急ぎで戻りました。息を切らしている私に先生は申し訳なさそうに、「自販機はその壁の向こうにあるとですよ」とおっしゃって二人で大笑いしました。先生の笑顔と共になつかしい思い出です。

先生がいらっしゃらなくなつて、やがて七年の歳月が流れようとしています。今も変わらずご支援下さり、ご注文を下さる皆様に感謝の心を込めて発送作業を行なおうと思います。(N・Y)

会 則

①本会の名称をベシヤワール会とする。
②本会は、中村哲医師のバキスタン北西辺境州(現カイバルパクトウクワ州)ならびにアフガニスタンでの医療活動などを支援し、必要な広報・募金活動とともにワーカーの派遣を行うことを目的とする。

③本会は、思想・信条にとらわれず、「支え合い」の精神で一致して会を運営する。

④会員は年額三、〇〇〇円、学生会員一、〇〇〇円、維持会員一〇、〇〇〇円の年会費を納入する。

⑤会員はそれぞれ可能な範囲で、自ら創意工夫して自由なやり方で支援活動を行う。

⑥本会は会報を発行し、会報を通じて活動を報告する。

⑦本会は若干名の理事、監事を選任し、会の運営を行う。

⑧毎年一回総会を開き、事業および会計について報告する。

⑨本会の事務局を

〒八二〇〇〇三 福岡市中央区春吉一―一六―八 VEGA天神南六〇一
TEL 〇九二―七三二―一三三七二
内におく。

総会、現地報告会は原則として毎年六月第一土曜日に開催いたします。